

詩編 19 編の黙想 神の栄光と御手の業を示す被造世界 (2020 年 4 月 15 日分 MT)

コロナウイルス感染拡大で人のいない海岸を散策すると、環境世界には人がいることが幸福であるのかとふと考えてしまう。いわゆる「自然林」は人が多少手を入れると美しく整うとはいうが。また宇宙から地球を眺めるといわゆる自然崩壊の爪痕が生々しいという。今まで親しまれてきた詩編 19 編を朗読してみよう。この詩は構想が雄大で言葉も美しい。

・天は神の栄光を物語り、大空は御手の業を示す。

「天」(haš·šamayim シヤマイーム複数)とは複雑な概念です。創世記 2 : 1 によれば、「天」は人間の目には見えませんが「地」と並ぶ神の被造世界です。創世記 1 : 6 によれば、大地は透明のドーム(rāqia')に覆われており、それが、空中の上と領域と下の領域を分けており、大空そのものも天と呼ばれ、大空の上の方の領域もまた、天であり、栄光に輝く神や天使の住まいと思念されています。後にパウロは「第三の天」にまで引き上げられた(II コリント 12:2)と言います。「大空」の下の「大気」(atmosphere, air)、the sky と呼ぶ場も「天」と表現されることもあり、「天の大空」(rāqia' haš·šāmā·yim)には、太陽と月が輝き、(1:14-17)、「大気」と私たちが呼ぶ空間には鳥たちが飛んでいます(1:20-21)。この節の「大空」は冠詞つきの hārāqia' ですが、空と太陽と月、そこに住む鳥たちを含んだものでしょう。人間が神の栄光を賛美する以前に、「天」そのものが神の「栄光」(kəōwd)を宣言しており、大空は彼の手の業であることを示しています。最高の被造物である人間に先立ち、天と大空が被造物として創造主を賛美しているのです。われわれにはこの讚美が聴こえていますか。これに共鳴する感性があるでしょうか?!あるいはパウロがローマ 8 : 18-22 に言うように、人間の罪によって束縛された被造世界の「うめき」を聴くでしょうか? 昼は太陽が規則正しく東から上り、天空を駆け、西に沈み、月もまた規則正しく満ち欠けをしながら夜空を照らします(言葉と知識によって連携しているのです。1) 実際の耳には聞こえないがまさに霊的インスピレーションによってこの声を聴いていますか? むしろ、人間世界はこの神賛美を聞き損なっており、全地、世界はその響き(qaw·wām line 琴の音)、言葉(milēhem)を聞き損ねていませんか?

宇宙物理学の知見では、宇宙が誕生したのは150億年前、地球が誕生したのは約46億年前、生命の誕生が35億年前、アフリカでホモ・サピエンスが誕生したのは約200万年前であるといわれています。最先端の科学者であったホーキングは、存在するものの説明には神は不必要であり、邪魔であると言いましたが、彼も宗教の存在を否定してはいません。理性は「そうだろう!」:という蓋然性を語り、信仰者は世界を神の「被造世界」と理解し神賛美をします。

・主の律法:その特質と効果

神の栄光、神の意志を表すものは被造世界だけではなく、神が与えたもう「律法」(tōwarat 単数)もあります。それは「完全であり」、魂を生き返らせ(convert)、主の「証言」「定め」(ē dūt 単数 testimony)は「真実」「確実」です。無知な者(the simple)を「賢くする」のです。主の命令(piqqūdē 複数形、道徳的な教え、指針、格言)は心を喜ばせ、主の戒め(miswat 単数形戒め全体)は明確で、目を照らし出します(enlightening)。主の「審き」(mišpatê)は真実で、とこしえに続きます。

・信仰者は福音から照らされた戒めを基準にして内省、自省して生きるのです。律法を熟慮すること。無意識な罪から解放されること、驕り高ぶらないこと、言葉に気を付けること、心の想いと語る言葉の両方が主に浄められるように!最後に、岩であり、贖い主である主に身を委ねます。